

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和元年 7 月 1 3 日（土）午後 1 時 3 0 分から 3 時まで

2 場 所

クリーンセンター 研修室

3 参 加 者

（1）特別職

井崎市長、石原副市長、後田教育長、志村上下水道事業管理者

（2）部 局 長

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、
秋元子ども家庭部長、武田都市計画部長、石野都市整備部長、
石井土木部長、菊池教育総務部長、前川学校教育部長

（3）事 務 局（秘書広報課）

中野課長、三好係長、加藤主事、中村主事、
須賀主事（記

4 来場者数

3 0 名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

今後10年間で高齢化が進み、税収が下がることが懸念されます。企業誘致を推進して安定した税収を確保しなければ、流山市全体の市政運営に支障を来すと考えられますので、今後10年間の計画に反映させてください。

A 市

ご指摘の通り、流山市では団塊の世代の方々が引退して年金生活者が増えています。この現状を乗り越えるため、若い世代の方々に流山市を選んでもいただけるような施策に取り組んできた結果、現在では30代から40代の方々が増え、その方々の納税により流山市が支えられている面があります。

企業誘致については、現在、新川耕地に物流センターを建設中です。今後は多額の固定資産税が入るようになり、今後の10か年計画においても大きな役割を担ってくるものと思われまます。また、おおたかの森周辺においても企業とのマッチングを行い、本社や研究所を誘致できるよう鋭意努力していきたいと考えます。

Q 市民

最近、集中豪雨が度々発生しています。駒木台の周辺や大堀川は工事が完了しており浸水の心配は無いという話を聞きますが、具体的にどのくらいの降水に耐えられるのですか。

A 市

駒木台は数年前に水路の改修を行っており、通常の雨による浸水は起こりませんので安心してください。

Q 市民

通常の雨の話ではありません。近年は150mmを超える豪雨などが発生しています。以前は、江戸川台やマルエツの前の交差点に水が溜まってバスが通れなくなる事態が発生しました。

例えば「300mmを超えると危険である」というような基準を設け、どの程度の雨までは大丈夫というように住民を安心させる情報を出してはどうか。

A 市

現在、市では 50mm の雨水に耐えられるように工事を進めていますので、100mm を超えるような大雨が降れば水を捌ききれないことも考えられます。

初石のマルエツ前の交差点については、今回の工事により排水がかなり改善されたと考えています。一方、江戸川台については早期の解消は難しいと考えています。

Q 市民

新川まちづくり協議会に出席しました。

最終的に 6 棟の物流センターが完成すると聞いていますが、物流センターにはトラックターミナルが無く、物流センターに通勤する個人の駐車場も無いと聞きました。これらの話は本当なののでしょうか。

A 市

トラックターミナルは、トラック同士が荷物の入れ替えを行う場所などを指しますが、そのようなスペースが整備されるとは聞いていません。

Q 市民

物流センターには長距離運転のトラックが待機する場所があるのかを教えてください。物流センターは 24 時間営業の予定であり、トラックがエンジンを付けたまま路上に駐車して騒音問題に発展することを危惧しています。

また、以前、アスクルの倉庫において火災が発生した際は大きな被害が出ました。物流センターのような巨大な建物に火災が発生した場合、流山市の消防で対応できるのですか。また、物流センターには火災に対して自衛する消防団があるのですか。

A 市

物流センターの敷地内に駐車スペースが確保され、休憩施設もあるため、トラックが路上に駐車する事態はないと聞いています。

アスクルの倉庫火災の場合は防火シャッターがベルトコンベアに阻まれて作動しなかったそうです。物流センターに火災が発生した場合、施設内の防火シャッターを下ろして外部に燃え広がることを防ぐ仕組みがあります。荷物が置かれてシャッターが閉まらないという事態が起こらないよう、消防に

においてチェックいたします。また、物流センターも様々な事業者が利用しますので、防火対策に万全を期すよう各事業者にも促してまいります。

Q 市民

西深井地区は、物流センターの外に通勤用の駐車場を整備すると聞いていますが、周辺は道路が狭く、十分な駐車スペースがあるのか心配です。

GLPは屋上に立派な駐車場がありますが、DPLについては、今後視察を行い問題提起しようかと検討しています。

A 市

物流センターは、全ての駐車スペースを敷地内において賄うこととしていますが、西深井地区は新たな建物を建設する作業員の駐車場が足りない聞いています。

Q 市民

市内の救急車を増やしたり、医療の専門部署を増やすなど、補助金でもいいので医療に予算を回してくれないと安心して病院にかかれないのでお願いします。

A 市

救急車を充実する件については持ち帰って協議させてください。

安心できる医療については、流山市医師会と夜間治療に関する委託契約を結び、運営の助成をしています。二次医療については、市内の大きな病院に輪番で受け入れていただけるよう医師会を通じて依頼し、医療の充実化を図っています。

Q 市民

災害発生時、井戸水は浄水器を通して飲めないと聞きました。市内4か所の浄水場まで飲料水を受け取りに行ってほしいとのことですが、できれば井戸水は浄水器を通して飲めるようにしてほしいです。

また、井戸水の水質が災害時に1週間程度なら飲めるのでしたら、市のほうで判断して情報を提供してください。

A 市

応急給水については、今年度中に市内の小中学校において配布できるよう進めています。過去にはどのような形の給水となるのかが不明瞭であったことから、多くの方が車で給水所までお越しになり、大混雑を引き起こしたことがあります。リュック型のバックに給水するので楽に持ち運びできるため、徒歩や自転車にてお越しいただきたいと思います。

今後、安心メールで応急給水をご案内する際は、車ではなくても持ち帰れることを説明して混乱が起こらないようにします。

井戸水は、水質検査に照らすとどうしても飲料水に適さないという数字が出てしまいますので、市として「飲んで大丈夫」と案内することはできません。ただし、浄水器の性能は年々上がっていますので、今後飲料水に適するように浄水できる機器が出ましたら導入を検討したいと考えます。

Q 市民

災害発生時には電力の供給も止まることが予想されますが、その際は自家発電等でどの程度の水を供給することが可能なのでしょうか。

A 市

市の各浄水場には自家発電機を整備しており、燃料となる重油は24時間分を確保してあります。

Q 市民

私の地域にはまだ上水道が普及しておらず、先日自治会より市に上水道の普及の要望書を出しましたが、それに対する通知が届いている住民と届いていない住民がいます。要望書を出したところに通知が届くのならば全員のところへ届くべきではないのでしょうか。それとも流山市は要望書を出しても回答が来ないということなのでしょうか。

また、西深井の旧料金所の手前の道路は、県道よりも低く、両脇が高くなっており、水路に水が溜まるのではないのかと考えています。押しボタンの信号から愛宕ふれあいの森にかけては、ふれあいの森から江戸川に向かって徐々に高くなっていき、県道のところになると急に下り坂になります。物流センターの工区の地形について教えてほしいです。なぜ土を盛らなくてはい

けないのかプロの人に確認したいです。

A 市

流山市の上水道は99.5%まで普及しています。江戸川沿いの地域は未普及であり、一昨年より未普及区域を解消する整備を始めています。

通知については皆さまに連絡したと認識していましたが、今年は西深井、来年は平方を整備しますので安心してください。

物流センターには、降った雨を敷地内に貯めておく施設があります。

貯めた水は新川承水路の水位が下がった時点で排水する形を取っており、県道から江戸川までの排水に関しては心配ないと考えています。

Q 市民

排水のことではなく、土地の高低差をつけることについて、費用対効果の面からも、わざわざ高くする必要はないのではないのでしょうか。

A 市

この後、詳しい場所等について個別に確認させてください。

Q 市民

田舎では定住人口を増やすのが極めて難しく、繋がりを持った人に来ていただき、物事に一緒に携わるという観点から「関係人口」が重要になってきています。

流山の観光は弱いと思います。いつも話に上がるのは利根運河と流山本町ですが、その2つだけでいいのでしょうか。他にも発信すべき多くの観光場所があります。

オランダは市民参加に熱心であり、先進モデルとなるべき存在です。定住人口ではなく交流人口を増やすことで街を活性化していくことが大切だと考えています。

A 市

流山市は定住人口が増えておりますが、長くは続かないため、交流人口を増やすことが大切と考えています。

オランダとの関係については、10年ほど前に審議会を立ち上げ、オラン

ダの数都市を友好都市の候補としました。市がアプローチした頃は、すでにオランダは多くの都市と友好都市関係を結んでいたことや、ユーロ危機の真っ只中にあることを理由に実現しませんでした。東京オリンピックにおいてオランダチームが流山でキャンプを行うことが実現しつつあるので、これを契機に再アプローチを行うことも考えています。しかし、現在はネットも発達しているため、新しい友好都市の形を提示していかないと相手の都市は見つからないと考えています。

流山本町と利根運河については、本町は地に足を着けたばかりであり、利根運河も PR を始めていますが、来訪者がお金を落とす場所が非常に限られています。このため、経済効果の見込まれる店舗などを創出できるよう尽力しているところです。

インバウンドについては、今年の8月に1人の外国人を雇用し、タクシー事業者や店舗の事業主に対して英語による接客の必要性に関する研修を行い、併せて世界への情報発信を行うなど、本格化したいと思います。ただし、流山は道も狭いため旅行者がバスで大勢来て買い物するのではなく、いわゆる「通」の方々に日本の風景を楽しんでいただこうと考えています。

利根運河のツーリズムに関しては、他市と協調すると話が進まないこともあるので、流山が中心となり進めていきたいと考えます。

流山本町や利根運河の他にもオープンガーデンのように様々な観光名所が生まれていますが、優先順位としては、場所を分散させるよりまずは歩ける空間をきちんと整備することを重視しています。

Q 市民

千葉テレビにて各自治体の防犯メールが発信されますが、携帯電話の防犯メールと千葉テレビのメールとが前後することがあります。千葉テレビのデータ放送に流山のメールが入ることが時折あるため、緊急時には速やかに発信してください。

A 市

千葉テレビのサービスについては調査のうえ改めて検討させていただきます。

Q 市民

地域活動に貢献したいと思い、育休を取得して初めてタウンミーティング

に参加しました。子育て世代がこうした街づくりに興味を持つことが大切だと考えますが、一方で市のこうした取り組みを知る機会が少ないと感じます。市民に取り組みを知ってもらい市民を巻き込んでいくためには、もっと行政側が発信していくべきではないでしょうか。

また、タウンミーティングの進め方にも問題があると思います。今後のタウンミーティングでは、ファシリテート等を含めた開催方式を考える必要があるのではないのでしょうか。

A 市

普段タウンミーティングにお越しにならない方の意見を聞くため、先日は無作為抽出型のタウンミーティングを開催しました。当日はテーマ別の進行を行い、子育て世代の方々から多くの意見をいただきました。

現在は、テーマの有無、自由参加と無作為抽出を使い分けてタウンミーティングを開催していますが、他にもこのような形式にした方がよいというアイデアがありましたら是非ご教授ください。

市民参加については、Facebookに「moricom (モリコム)」という流山市のページがあります。市民の自主的な企画なども紹介していますので、その方に連絡したり、無ければ自分で立ち上げたり、または、マーケティング課にご連絡をいただければ皆様のアイデアが形になると思います。

Q 市民

物流センターの影響により道路が混雑しており、土木部に看板等をつけていただきましたが、公道のため強制的な措置はできないようです。

提案ですが、中野久木のミニストップ前の蛇道路、また「農免道路」の拡張はできないのでしょうか。そのような計画はありますか。

A 市

中野久木の通称「はくれん通り」については、地元の方々の要望もあり、今年度、見通しや安全性の確保を行い部分的な改良を行う予定です。今後、自治会に案をお示ししながら進めたいと考えています。

「農免道路」については、現在のところ計画はありませんが、要望をいただければ検討したいと考えています。

Q 市民

一昨年(2019年)の4月、さつき号の運営者が事業者から市へと変わり、その趣旨や利用方法が変わりました。カラオケが間もなく設置されると聞いています。

高齢者の福祉的親睦のためにさつき号を利用することを考えると、飲酒が不可ということが一番の問題だと思います。利用方法が変わったのならば、利用者に説明するべきだと思います。お酒が飲めないのでは親睦に使い辛いというのが意見です。

A 市

バス輸送の事故が全国的に多発し、道路交通法が厳格化したことに伴い、さつき号のバスはリース方式、運転手は運転事業者に委託するという運営形態に変更しました。

ただし、利用者の利用形態については変更しておらず、以前より飲酒はご遠慮いただいています。アンケートによれば飲酒の要望は少数であり、以前旅行先で購入したお酒を誤ってこぼしてシートを汚してしまい、車内に匂いが充満して気分が悪くなった人もいました。車内の飲酒はご遠慮いただき、休憩やお食事などの時間に車外で懇親を深めていただければと考えています。

カラオケ機器については多数のご要望をいただいているため、今年(2020年)の8月に設置する予定です。今後もアンケートを取りながら可能なことについては対応してまいります。

Q 市民

老人会の補助金は、構成員が29人以下の団体は48,000円とされ、構成員が1人増えるごとに100円ずつ上乗せする方式です。仮に構成員が29人だと1人当たり1,656円ですが、我々の団体は構成員が69人いますので、1人当たり760円の計算となります。

以前より「比例方式にしないとおかしい」という意見を述べていますが、全く反映されていないようです。多くの老人会は構成員が減ったり潰れたりしていると聞いていますが、努力して人を増やすごとに1人あたりの補助金が減っていく状況では当たり前なのではないでしょうか。

どのように補助金を出せば老人会が活性化するかという観点から、硬直化した補助金のあり方を考え直してほしいです。老人会が衰退しているのは金銭面以外の問題があるとは思いますが、どうせ補助金を出すのなら

ば意義のある補助金にするためにも一度考えてほしいです。

A 市

ご意見については持ち帰らせていただき、どうすれば老人会を活性化させられるのか、市と老人クラブ連合会において一緒に考えたいと思います。